

千秀だより

横浜市立千秀小学校

1月号

平成30年(2018)1月9日



2018年の年頭に当たって

校長 市川 幸男

2018年が開けました。保護者の皆様、地域の皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。

さて年末年始をはさんだ今年の冬休みはいかがだったでしょうか。本日、休みが終わった子どもたちの様子を目にしますと、久しぶりの友達との再会に、当初こそは会話が弾んでいましたが、朝会が始まると、すぐに話を止め、背筋をぴんと伸ばし、まっすぐ私の方を見てきます。それは、一人ひとり、しっかり心の切り替えができており、新たな年への期待や決意に満ちているようで、とっても気持ちのよいものでした。きっと子どもたちの心の中には、「この一年をいかに過ごすか」とそれぞれに心に期しているものがあるからだと思います。

私はと云えば、今年こそじっくりと本を読むぞと思い、買ってはいたが、なかなか手の伸びなかった小学校経営についての本に挑戦することから始めました。読み進めていく中で「屈託のない笑顔」という言葉が目にとまりました。意味は「心から楽しく思って笑っている顔、何の心配もない素直な笑顔」などです。読み進んでいく内に、子どもたちの笑顔が毎日あふれるくらい見ることができるよう学校づくりを改めて大事にしたいと思うようになりました。とはいえ、いくら天真爛漫な子どもといっても、時には、不安であったり、納得がいかず疑問に思ったりすることもあると思います。そこで大事なことは、子どもがぐよくよして、自分の内にとめ込むのではなく、誰かに相談できる環境をつくることであり、子どもが自信をもって問題に臨んでいく姿勢・能力の育成なのだと思います。千秀小学校は、そんな教育や学校づくりを、これからも進めていきたいと思っています。そして、自分もその相談できる相手でありたいと、新年早々に、心に刻みました。

冬休みが終わり学校では学年のまとめとなる3ヶ月が始まります。みんなが共有する学校目標、4月に立てたクラス目標、そして子どもたち一人ひとりの個人目標。それぞれを達成するために、子ども自身がすべきことを再確認し、できていないことを一つ一つ解決して、大きな成果に結びつけていく時です。その体験は「わたして、やればできる！」という自尊感情の向上に結びつき、ぞして「自信」につながって参ります。

その実現のため、次のことを大切にしてお過ごし、子どもたちに話しました。

◎自分をみつめる1月

4月～12月までを振り返り、良かったこと、そうではなかったこと、新たにできたことや、まだまだできないことなどを自分でしっかり考え、自分で決めて「よしやるぞ」のスイッチを入れる期間として、毎時間の授業を、そして、一日一日を大切に過ごしましょう。

◎2月はありがたいの気持ちを大切に作る～一人ではない。応援してくれるが必ずいる!

自分のしてきたことに自信をもつとともに、先生や友だち、家庭や地域の人たちに支えてもらってきたことへの感謝の気持ちを確認する期間として一日一日大切に過ごしましょう。

◎巣立ちの3月

6年生にとっては、胸をはって前を向いての小学校卒業、1～5年生にとっては学年でやり残したことはないように、精一杯取り組むこと。特に「気持ちを素直に伝えること、元気にあいさつすること、楽しく学習すること」を大切に一日一日を過ごしましょう。

